

海友丸通信 2号

令和元年 6月 26日

海洋技術類型 3年 1組

長崎を出港して二十日が経ちました。生徒の感想を送ります。

(航海コース)

(I. S)

乗船してから二十日が経ちました。船内生活を楽しんでいます。操業では、たくさんの魚を見ることができました。陸が恋しいわけではありませんが、お出迎えをお願いいたします。

(K. S)

船内生活、楽しいです。

(T. H)

二回目の操業で、100kg超のメカジキが獲れて、すごく興奮しました。80kgのマグロも獲れています。この調子でもっと大きいのを釣りたいです。

(K. Y)

家に帰りたと思うけど、学校の授業が無いのは良いことだと思います。六分儀を扱うのは、自分が一番上手と思います。

(M. R)

カジキの角、絶対持って帰る。



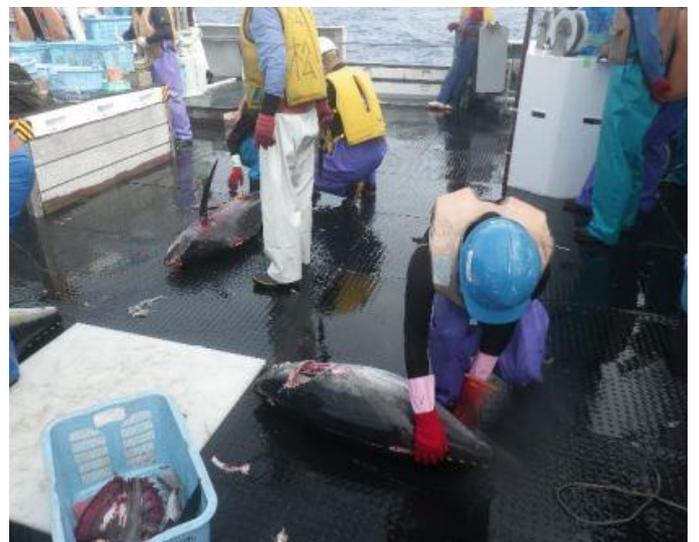
太陽の高度測定中



体長 250cm 体重 150kg のメカジキと



炎天下で揚縄作業中



漁獲物の処理に忙しい生徒

(機関コース)

(I. Y)

僕は、早く船を降りて家に帰りたいです。家のご飯を早く食べたいです。そして、ゆっくり過ごしたいです。

(N. T)

自分は、今回の航海実習が始まるまで、こんなにきついとは思っていなかったなので、とてもツライけど、最後まで頑張ろうと思います。

(H. Y)

船酔いで、十八日間ダウンしていた。早く長崎に帰って、いつもの生活に戻りたい。

(S. R)

航海が始まり、20日間経過して、最初は本当に帰りたと思っていたけれど、船内生活に慣れ、毎日が充実した生活を送れています。これからも頑張ります。

(M. K)

自分たちの班は、操業2回目を終わりました。揚縄から2時間、魚が全く獲れなくて、心配していたけれど、夜になって100kg超のメカジキが獲れてとても興奮しました。

(指導教官の一言)

操業が始まり、10日が過ぎました。1班だけ適水(漁場移動)で操業していません。他の班が2回操業していることもあり、少々焦っています。海上は穏やかですが、日没まで、強力な紫外線が、容赦なく照りつけます。みんな、元気で頑張っています。

(指導教官 高山和幸)